

日本—中国 国際共同研究「第1回生物遺伝資源分野」 ～生物多様性の形成機構解明および保全のためのゲノミクス～ 平成29年度 年次報告書	
研究課題名（和文）	棘皮動物と脊索動物の発生プログラムから目指す遺伝的進化度の構築
研究課題名（英文）	Genetic degree of evolution in Echinoderm and Chordate developmental programs
日本側研究代表者氏名	入江 直樹
所属・役職	東京大学 大学院理学系研究科 准教授
研究期間	平成27年11月 1日～平成31年 3月31日

1. 日本側の研究実施体制

氏名	所属機関・部局・役職	役割
入江直樹	東京大学・大学院理学系研究科・准教授	全体統括、データ解析および解析方針の検討
近藤真理子	東京大学・大学院理学系研究科 附属臨海実験所・准教授	実験および解析方針の検討
大森紹仁	新潟大学・理学部附属臨海実験所・助教	実験および解析方針の検討

2. 日本側研究チームの研究目標及び計画概要

既に対象となる棘皮動物の胚の採取・RNA抽出が終わっているので、RNAseqを引き続き進める。RNAseqのデータが得られた後は、ゲノムとの照合を含め、クオリティチェックを行い、必要に応じて再抽出などの実験を再度行うことで、精度の高いデータセットを得る。また、中国側と連携しながら、ゲノムアセンブルやアノテーションの詳細を調整することで、高い精度をもったゲノム配列を得る。

3. 日本側研究チームの実施概要

対象となる棘皮動物のゲノム・トランスクリプトームの同定が終了し、研究を遂行するための十分なクオリティが確保できていることが確認できた。